大正九年十月二十四日 第三種郵便物認可
新京日日新聞 夕刊 十月廿五日(水)
發行所 新京日日新聞社

第三次移民は 二千戸に上る豫定 移住地は議會後決定
―小河拓務書記官は語る―

來年の第三次移住地に就ては既に種々取沙汰されて居るが未だ何處とも決定を見て居ない豫定地は京圖、拉賓、呼海の沿線、ハルビン附近、現第二次移民の七虎力近傍と五箇所が大体選定されて居るが、今議會に於ける豫算決定如何に依つておの中何れかに決定を見る模樣である、右につき拓務省出張所小河書記官は左の如く語つた

來年は大々的に移民戸數二千戸の豫算を提出して居るが今議會で戸數決定を見た上でなければ移住地は何處とも決まらない、現七虎力近傍にかためて入れたがよいとの意見も相當有力だが他にも色々意見がある、何れにしても滿洲移民は今後大いに發展の機運にあるのだから益々周到な考慮を要する、先達て花嫁さんや小供お婆さん等賑かに家族を連れて永賓鎭へ歸つた十四名の第一次移民達は非常な歡迎で部落へ歸り、十五日の彌榮神社のお祭もそれで一層賑かに行はれたらしい、それから第二次移民七虎力の宋指導員から七虎力河の上流地帶に大森林、石炭、金鑛等非常に豐富な資源を發見、移民達は勇躍して居る、十一月初旬より同地帶に伐材班を入れるとの情報があつた

小八家子は 全村擧げて天主教の村
協和會松川氏語る

【新京】曩に長春縣一帶の治安維持工作に從軍し新京を去る西北五十五支里の小八家子に入り同地の諸事情を詳しく調査して過般歸京した協和會の松川氏は興味ある同地の事情を左の如く語つた

今度長春縣一帶の治安維持工作に從軍して途中單身小八家子といふ村に入つて見たが此の村が恐ろしく風變りなところなので二週間近く

=滯在= して色々土地の事情を見たり聞いたりして來た、小八家子は新京から約五十五支里西北に當り戸數二百、人口二千の小村落だが先づ第一に此の地の特徴ともいふべきは全村擧つて天主教の信者で村人は日曜は朝から仕事を休み一齊に神父と共に禮拜を行ひ平素も朝夕必らず禮拜を捧げて常にキリストを中心とする宗教の生活を送つてゐる、此の村が全村を擧げて斯くも熱心な天主教村となつたについてはこんな歴史がある、今から百二十三年前直隸方面からフランス人の傳導師が此の村へ入つたのを手始めとし以來定期的に布教が行はれるやうになり八十年前から傳導師が定住するやうになつた、爾來彼等は全く宗教至上主義の精神をもつて民衆の

=指導= に當り今では全く信者でない者は一人もなくなり女は全部黒衣を纏ひ一寸異郷の感に打たれる、村內は諸般の設備整ひ教育程度なども驚くばかり進步し、日本語學校等もあるが現在村內には唯一人の日本人拓大田出武村一雄君が教育の任に當つて居る、部落の周圍には塹壕を廻らし外敵に對しては全く一致獻身的な氣持であるため警備もうまく行き未だ嘗て匪害を蒙つたこともないとの事である、一般に生活程度もよく、日語學校の如き月謝二圓を徵集してゐるが五十人近くの村人が每日日本語の勉强をしてゐるが更に驚くべきは

=此の一= 片田舍の村からローマへ留學生まで出してゐると言ふ事である

大同林業公司 反對の陳情書(三)
木材同業組合から

(ハ)株券投資上に於て大資本家は其の利益配當が制限せらるるとも積立金其他の留保所得もあるべく、又假りに留保所得なしとするも其の投資に於ける利廻率は低率にても、異議なき場合と雖も弱小の資力を有するものには其の利廻り程度相當高率たらざる以上、本會社の株券を所持し得ざるべし從て此の會社の資本は自然斉林商關者中の資本家のみに特株を許すと云ふ實情に陷るべく、又公募株一百萬圓も最初の持株者は種々の名義を以てするも終局は二三資本家の手に集中され、會社の實態が資本閥により左右せられんとするの弊害に陷るなきや憂慮に堪へざるなり

(ニ)本社の重役が滿洲國政府の認可制により決定せられ更に適當の管理官を設置し、之が會社の業態に關し最重なる監督を行ふべしと規定すると雖も、上述の如く資本金の分布宜敷きを得ざるに於ては、特殊の私設會社と稱し得るのみ、事實上國有林の經營を國家百年の大方針に從ひ經營せしむるに關しては、大なる危惧と憂慮を感ぜずんばあらず

第二、大同林業公司經營の林場區域

該社經營の林場區域は敦化縣、額穆縣、樺甸縣及寧安縣南半部に屬し、由來在滿同業者が最も旺盛に事業の經營を爲しつつある區域にして京圖鐵道並に拉濱鐵道の開通は益々該地の森林價値を高め來れり斯る至便の森林は從來の中小資本家の經營に一任し、滿洲國政府は國有林の施業方針を定め之が指導機關を設け、監督すべきを良策なりとし該社の如きは小資本家の民營に適せざる松花江流域中適當の區域に於て林場の伐採を許可して、所謂大資本家たらざれば爲し得ざる豐富の森林を開發せしむるを以て至當且つ有意義にして、殊更に民衆をして從來經營せる其區域より追ひ拂ひ不合理なる組織の下に成る該社に對し放棄せる舊林場權に幾倍幾十倍せる有望の森林伐採權を與へ、一般民衆同業者を悲境に陷れしむるが如きは滿洲をして日本人の安住發展地とせしむるの根本方針とも甚しき矛盾ありと思料せらる

滿鐵第十回評議員會 議題注目さる

【大連廿四日發國通】滿鐵社員會第十回評議員會は來る廿七八兩日協和會館にて開催するが提出議題として二十項目を擧げてゐる、其の內討議の中心となるもの

一、社員會規約改正の件
一、社員會綱領第二の強化方策決定の件

があるが後者は最近漸く表面化しつつある我國對滿根本政策確立と共に來るべき滿鐵機構の變革に伴ふ身分保證其他自主的立場より會社將來の動向に對し政策の決定をなすため委員會を組織して研究の上は何等かの意志表示或は請願をなさんとする準備が整へられるものとみられ動搖の兆ある社員の結束統一を圖り非常時滿鐵の動向を社員としての立場より正しく誘導せんと積極的大決心の程はの見え兩日に亘る該議題の討議は注目すべきものがある

北滿探金隊 鐵嶺で越冬

【鐵嶺廿四日發國通】去る五月鐵嶺を出發した北滿探金隊は炎熱、匪賊の襲來と凡有る困難とたたかひ大黑河及び佳木斯の探險を行ひ大なる收獲を得たが寒氣襲來と共に探査困難となつた爲鐵嶺で冬を越すべく先發羽田班四十名は過日鐵嶺に歸還したが殘る九十名は近日中に歸還する豫定である、一行が當地滯在中は報告書の作成並びに相家溝、柴河堡の兩所で採金術の訓練を行ふ事になつて居る

十月廿六日 木曜 乙丑 佛滅 舊九月八日 平 斗宿

●一白の人 歳をも削らんずる波濤の勢を以て努力せよ 乙と庚と癸が吉
●二黑の人 緩み心を生ずる時は失敗を來たすべし注意 丙と丁と庚が吉
●三碧の人 理想のみに氣を取られて力を顧ず失敗あり 丙と亥と癸が吉
●四綠の人 浮氣心に着實性を失ひ八分迄の事も破れん 壬と癸と寅が吉
●五黃の人 目上の言葉に從ひて人に逆はざるがよろし 丙と酉と亥が吉
●六白の人 剛健なる志を以て憶せず自信に向ひ進め吉 庚と辛と戌が吉
●七赤の人 諸事順調の展開を來たすべし婚儀開店等吉 申と亥と癸が吉
●八白の人 警備を嚴にして家を守れば家道安全なる日 庚と酉と寅が吉
●九紫の人 頓智を以て奇利を博す臨機の處置を取べし 巳と丙と寅が吉

珠玉を碎く
吉井勇 (髙根秀浩畫)
謹無斷上映上演

(百五十二) 何處へ(六)

「はゝゝゝ、負け惜しみをいつてゐやがらあ」

一人はさう罵るやうに濁聲でいつてから、

「鬼に角もつと船先の方へ行かう、あすこなら何を話しても大丈夫だ」

三つの人影は、この聲につれて甲板の上に漂つてゐる星明かりの中を、船先の方へ動いて行つた。そしてさつき二つの人影が話合つてゐた邊に來て、いひ合せたやうに立ち止まつた。と、一人は何を思つたか、急に船乘らしい、彈力のある笑ひ聲を上げた。

「はゝゝ、畜生、うまくやつてやがるな。話せよ、昨夜の話の續きを……。それからお前はその女優を何うしたんだい」

が、それに應じた大貫らしい聲は、まるで何か敲き付ける様にひどくぶつきらぼうな調子だつた。

「くだらねえ。女の話なんてもうおれは御免だよ」

「ふん、ひどく御機嫌が悪いな。何うしたんだい。石炭の匂ひにでものぼせたのかい」

「あんな匂ひにのぼせて堪まるものか」

さういつた時丁度舷燈の光の前に顔が行つたので、始めて明らかにそれが大貫であるといふことが判つた。が、彼は何時の間にかすつかり髯を剃り落して、まるで人が變つたやうな、險しい顔付になつてゐた。眉の間がちよまつて、そこには一筋の縱皺が、暗く深く刻まれてゐた。

「さうか……。まあ、兎に角もう少し海の風に當つて、頭の血を冷すがいゝや」

「さうだ。もう追つ手の心配はねえんだから、安心して少し落ち着いたらいゝぢやないか」

二人はさういつてぢつとそこに照らし出された大貫の顔に目を注いだ。

「成る程、鬚を落してそんな水夫の服を着てゐると、まるで別の人間だな」

「うん、これぢやこゝに誰がやつて來たところで判らねえや」

二人は目と目を見合せて點頭き合つたが、しかし大貫は何か考へてゐるやうに、ぢつと唇を嚙んだまゝ默つてゐた。話が途絶えると、むしろもの悲しげに機關の響が微に傳はつて來た……。

「おい、誰だい、おれに昨夜の話をしろつて言つたのは…」

暫らくすると大貫のかう言ふ、嘲るやうな聲が沈默を破つた。

「馬鹿なやつ等だ。あんな話の續きを聞いて何うするんだい。たかがおれの書いた筋書だ。やくざな芝居よ。そんな芝居の大詰は大抵一人は墓場に、一人は牢屋に、それぞれ落着いたところで幕になるんだ」

「はゝゝゝ、ひどく手つ取り早く片附けやがつたよ。それでお前はこれから何處へ行くんだ」

「何處へ……」

大貫はわざとその問を怪しむやうに訊き返した。

「何でえ、お前達までそんなことを訊くのか。これから先き何處へ行くなんてことが、人間に判つて堪まるものか」

「しかし自分が何處へ行くかと言ふこと位はいくら何でも判つてゐるだらう」

と、大貫は自ら嘲るやうに捨ぶに笑つて、

「はゝゝゝ、ところがおれには判らねえんだ。鬼に角この船が上海に着く……。それから先は一切闇だ」

「一切闇だと……」

「さうよ、しかしおれはその闇の中からきつと何かを探し出して見せる……」

中央と接衡を經 沼田參謀昨日歸任

直ちに軍司令官に經過を報告

その歸來土產話

政治經濟兩方面に於ける帝國の對滿大綱最高政策の根本確立を圖る可く既に成案を經てゐる關東軍司令官の權限强化滿洲經濟參謀本部設立並に滿鐵改組等の重大問題を具して上京し過般來約二週間に亘り中央政府と折衝を重ねた關東軍特務部總務課長沼田中佐は昨廿四日ハトで歸任直ちに軍司令官を官邸に訪ひ歸任の挨拶並に經過報告を爲し本廿五日朝小磯參謀長と會見中央との折衝經過を詳細報告したが、右につき沼田參謀は左の如く語つた

東京で約二週間に亘り各方面と意見の交換を爲し大體に於て司令部の計畫案に對し中央の諒解を遂げた、中には非常に重大な問題も含まれてゐる關係上今遽かに實現し難いものもあるが其趣旨に於ては總ての件に亘つて諒解を與へられたと信じてゐる、即ち軍司令官に對する監督權を總理大臣のみとして其權限を强化することについても大體其趣旨に諒解を得たつもりである、經濟參謀部の設立といふ事は關東軍年來の計畫であつて昨今遽かに急造した計畫ではない、司令部に總帥幕僚があると同樣經濟幕僚を置いて國防資源に關する產業の統制並に日滿經濟ブロック單一組織化を圖るといふことは國家百年の大計上是非必要な事である、その第一步として特務部と滿鐵經濟調査會を合併して機構の擴大强化を圖ることとなり漸次此の經濟參謀本部の具體的實現に適進の方針である、滿鐵機構の改組といふことは滿鐵の解消を意味するものでなく其の擴充を意味するものである、多年滿鐵が滿蒙全局の開發に獻身的な努力を爲した過去の功績ある歷史に鑑み滿鐵の改組については深甚の考慮を拂ひ社員に不安を與へる樣なことは決してない、其の機構は製鐵、電氣瓦斯、石炭、其他總ての會社に分離獨立せしめ滿鐵は特殊其持株會社としてホールディング・カンパニーのシステムをとることとなる、たゞこれが實現には豫算關係を伴ふのでこれが具体的實現迄には各方面と折衝の餘地があるが大體來年の三月までには其の實現を見ることとならう、殘された問題は滿鐵の監督を司令部に一括統制するといふことの問題であるが此點に於ても大體中央の諒解を得たと信じてゐる、なほ關東廳は關東州のみの行政廳に縮少することとならうが之が實現も漸次行はれて行くことにならう

盧山會議に基き

親日陣容の改變は甚だ疑問

＝外務省側の觀測＝

〔東京廿五日發國通〕南京政府が第三次盧山會議の決定に基く徹底的親日政策に轉向せんとして居るとの報道に關し（北平電報）外務省では左の如き觀測を下してゐる

南京政府が今回徹底的親日行動に出でんとしてゐる

＝事は＝ 各方面よりの情報に依つて察知されるが、然しながら傳へられるが如く駐日公使を更迭し新に中國銀行南京支店長吳震修を蔣作賓の代りに新に駐日公使に任命せんとし、アグレマンを求めつゝあるとのことは未だ聞いてゐない、現在吳震修は令息を東京の學校に入れる爲東京に來てゐる、現在全國經濟統制に腐心しつゝある吳震修の如きは國內に必要だから、之を方面違ひの駐日公使とする事は疑問である、浙江財閥が宋子文の辭職を强要してゐると云ふが如きは考へられない又蔣介石がえを許す樣な事はあるまいと思はれる、但し浙江省財閥が日本との貿易促進につき熱意がある事はうかがはれる譯で、北支停戰協定善後措置のため、黃郛氏が北平にあつて努力しつゝあるが、之を圓滿に了すれば或は他の適當なポストに行くかも知れないが、蔣介石汪精衛等が親日陣容として羅列されてゐるが如き

＝移動＝ は信ぜられない我國としては支那側が誠意ある所を具体的に示さない限り俄かに信ずる事は出來ぬ

關東軍と打合せの爲め 柴山中佐來京

關東軍と打合せの要務を帶びた北平武官柴山中佐は二十四日特急「ハト」で着京吉岡參謀、遠藤參謀等の出迎を受け直ちに宿舍滿洲屋に入つた

廣田外相の就任により

外務考査部案樞府を通過せん

〔東京廿四日發國通〕外務省は廣田外相の就任により樞府側の空氣好轉し行惱みの外務考査部案は愈よ近く樞府を通過し得る見込みであると樞府側から非公式に通知を受けたので、在來の案を多少修正し大體右考査部を外務省の一局とし局長は次官の下へ置き一局長三課長を置く全く事務的の機關とする方針であると

菱刈軍司令官 奉天に向ふ

菱刈軍司令官は本日午前九時發列車で塚田大佐、辰己少佐今岡副官、吉澤書記官を隨へ小磯參謀長以下幕僚の見送りを受け奉天に向つた、尙附屬地憲兵分隊長原小佐も警衛の爲め隨行した

古田司法部 總務司長

十一月初旬着任

滿洲國司法部總務司長に決定した大審院檢事古田正武氏は本月末東京を出發し來月匆々着任の筈である

歸朝後は日本に留る

出淵大使語る

〔ワシントン廿三日發國通〕出淵駐米大使は廿三日外務省より日米關係に關する情勢報告のため可及的速に歸朝の途に就くべき旨の訓電を接受した、出淵大使は歸朝の上は恐らく歸任しないものと觀られてゐる

尙出淵大使は家族同伴十一月上旬ワシントン出發同月中旬サンフランシスコ出發の豫定であるが同大使は語る

余は十一月上旬家族と一緒にサンフランシスコを出發歸朝するつもりだ、歸朝後は恐らく日本に留まることにならう

佛內閣辭職に依る 金本位停止說

土方總裁否定す

〔東京二十四日發國通〕佛內閣瓦壞で佛國の金本位停止は免れぬものとなつたが、右に就き土方日銀總裁は左の如く語る

內閣が辭職しても佛國民は大戰後のインフレ時代の苦き經驗で金本位を望み之に反する內閣の存立は絕對に不可とされてゐるから、佛國民は金本位維持の內閣を益々求めるだらう、さて金本位停止說を否定してゐる

日印會商は 益々複雜化

澤田代表關稅率及割當數量に 印度側の讓步を要求

〔東京二十四日發國通〕二十三日の澤田、ボーア第三次私的交涉で日本側は綿布輸入割當量と印綿買付量の關聯を原則的に承認する代償として關稅率並びに割當量に關し印度側の讓步を要求したが、日本側の頭初の主張たる五億七千八百萬平方ヤードの割當量は關聯の原則を承認する前の數字だから右原則を認めた以上割當量も又當然買付量に比例して伸縮すべき性質のものと解され、從つて數量問題は今後關聯の原則と微妙に錯綜し複雜な展開を示すものと豫想されてゐる、例へば

一、日本の印綿買付量が原綿騰貴乃至は兇作のため減少した綿布輸入量を如何にするか

一、日本側の綿布輸出が印棉買付量に關聯する數量に達しない場合不足量を次年度に持越し得るか

一、印綿買付量が減少した場合、綿布の輸入比例的に增大せしめ得るか

等の問題が發生し、相當の紛糾は免れまいと觀られてゐる

佛後繼內閣 首班は？

〔パリ廿四日發國通〕今曉下院に於ける財政法案の票決を了へたダラディエ內閣の閣員は、票決後夜半にも拘らず直ちに下院より自動車を驅つてエリゼイ宮の大統領官邸に赴き一同ルブラン大統領に辭表を提出した、ダラディエ內閣の後繼者に就いては同じく急進社會黨のアルベール、サロー氏、同じくショータン氏の呼聲高く、又上院財政院長カイヨー氏も有力視されてゐるがサロー氏はダラディエ內閣の植民相でショータン氏は同じく內相で急進社會黨が下院に於ける第一黨である關係と今回のダラディエ內閣の敗北が財政法案の一部たる官吏俸給課稅案に基くものであるに後繼者として急進社會黨員の呼聲が高い譯である、而して內閣が何人によつて組織されるに拘らず、フランスの外交政策には實質上變化はないものと觀られて居るが、但し內閣はダラディエ內閣に比しその政策を幾分右に轉じ得可き事は確實であらうと信ぜられて居る

積極的意志なきも 無期休會案には贊成

軍縮會議に對する我當局意向

〔東京二十四日發國通〕來る二十六日開催される軍縮幹部會に對し日本側よりは無期休會案を提出するであらうと傳へられて居るが、外務當局はこの際かかる積極案を出す意向はないと否定して居る然しドイツを中心とする歐洲問題が解決しない限り軍縮會議を開會の儘にして置くも何等效果ない故他國より會議休會案を提出される場合は贊成投票をなすことに決して居る、若し無期休會案が採決された場合は我軍縮全權の中陸海兩全權に對し一旦ジユネーヴ引き上げを命ずるに內定して居る

全滿木材業組合 繼續聯合委員會 二十六日開催

本月八日新京に開催の全滿木材業聯合は大同林業公司成立反對の件其の他に付繼續委員會を設置せるが來る二十六日午後一時より新京商工會議所に於て該繼續委員會を開催し大同林業公司成立反對に關する今後の對策を附議し併せて同業者間に常に問題せられつゝある滿洲國林務機關擴張建議案其の他に付協議すると

十一月中に

第二回公債發行

〔東京廿四日發國通〕本年度發行豫定の新規公債は曩に發行したる三億圓の四分利付公債を除き尙七億圓程度の未發行分を有するので政府は十一月中に第二回公債を發行の筈であるが、その發行要綱は左の通りで前回同樣と觀られてゐる

發行額 約三億圓
內日銀引受額 約二億圓
預金部引受額 約一億圓
發行價格 額面百圓に付九十八圓五十錢
償還期間 廿五ヶ年

張實業部總長 大連へ

實業部總長張燕卿氏は本日四時半發列車で大連の滿鐵中央試驗所視察に赴いた歸京は廿九日頃の豫定である

ル大統領の 產金買上發表

我政府も金保有增加を考慮

〔東京廿四日發國通〕ル大統領は新通貨政策に基き八月公布された新產金法令を

＝活用＝ してロンドン並びにパリ市場に於ける金價格、米國內に於ける新產金の第一回買上げを行ふことに決定從つてこれが我國に及ぼす影響は左の如くである、即ち米政府がロンドン並にパリ市場に於ける金價よりも高價に產金を買上げる結果はフランス、オランダ等の金は米國に吸收されると共にこれが爲結果して兩國の金本位は少からず脅かされ所期の如く米國の物價を吊上げることが出來るか否かについては疑問であるが右政策の結果、米政府は多量なる產金を更に保有することとなるので將來に於ける米貨切下げ等の事情を考慮して我國も政府に於ける金保有の問題が具体化するものと觀られて居る、而して現在我國の產金買上げは爲替の差損金に充當するためであるが政府は來る通常議會の協贊を經て新法令を以つて金、銀賣買資金の設定を行ひ金保有の增加を圖るものと豫想されてゐる、又現在の金價の國際的水準は一匁につき約十三圓五十錢程度であるので米政府の買上げ價格はこれ以上となり我政府の買上げ價格八圓八十八錢（二十四日の市中相場十一圓三十錢）と

＝非常＝ な間隔を生ずることとなり豫てより問題となつてゐた我政府の產金買上値段の開始は愈よ近く實施される情勢となつた

大使級の 異動

〔東京廿四日發國通〕廣田外相は抱懷せる外交方針に關し政府の全面的支持を得たので愈よ之が遂行の第一步として人事の一大刷新を決意し、既に出淵駐米大使に歸朝を命じたが更に之に伴ひ大公使の異動を行ふことになり曩に外務次官たりし有田八郎氏をベルギー大使たらしむべく同國政府にアグレマンを求めた所廿三日到着を見たので歸朝中の長岡駐佛大使の待命と共に多分陛下の還幸直後來月早々左の如く更迭を見る事となつた

特命全權大使 佐藤尙武
被仰付佛國駐劄
從四位勳二等 有田八郎
任特命全權大使
被仰付ベルギー駐劄
特命全權大使 長岡春一
被仰付待命

大藏男講演 政治問題で

來京中の元滿鐵理事男爵大藏公望氏は十一月八日午後四時半から新京高等女學校講堂で講演を行ふはず演題は「第六十四議會とその後の政況」で主催は新京地方事務所

稅金を增徵され 樂亭縣民續々滿洲へ

〔鄭家屯廿四日發國通〕當地居住鮮人にして灤東地區樂亭縣南方廿五支里河新庄に赴き先日歸來したる者の談に依れば樂亭縣は南北八十五支里、東西五十支里に亘り八百餘の部落あり、その人口七十七萬と稱せられてゐるが目下公安局巡警四百、警備隊百名、自衛團三千名にて、治安維持に努めつゝあり至極平穩なる模樣で住民は之等自警團の費用を負擔してゐる爲一天地當り廿圓餘の稅金を徵收されつゝあり、以前は三四圓に過ぎなかつたが右の如く稅金が過重となつた爲生活困難となり、滿洲國內に移住するものが日々に增加し住民は悉く滿洲國編入を渴望してゐると又滿洲國より入國するものに對する身体、荷物の檢査は極めて嚴重で同人が檢査を受けた際偶々大日本國旗があつた爲警察偵の疑を受け、一晝夜拘留され嚴重なる訊問を受けたが證據不充分で十五圓の罰錢と保證人を立て漸く釋放された

榮中銀總裁 訪日の日程

既報、滿洲中央銀行總裁訪日の一行は總裁榮厚、理事鷲尾磯一、監事闞潮洗、文書科長清水孫秉、秘書長久富治の諸氏で、日程左の通り

十月二十五日午後四時半新京發、鷲尾理事二十六日奉天より飛行機で出發、二十七日大連發（烏蘇里丸）三十日神戶着、同東京着（午後九時二十分）

旅行期間は約一個月間の豫定である

奉山線 列車不足で

臨時列車運轉

〔奉天廿四日發國通〕從來奉山線は旅客多く列車の不足を感じてゐたが、これが緩和策として來る廿七日より當分の間奉天（滿鐵驛）錦縣間臨時列車を左の如く運轉する事となつた

△下り 第六四三列車皇姑屯發十五時奉天着十五時七分奉天發十五時廿七分、錦縣着廿一時廿分
△上り 第六四〇列車錦縣發六時五分、奉天發十二時十八分、皇姑屯着十二時廿五分

因に右臨時列車は三等客のみ取扱ひ一、二等客及び手荷物は取扱はない

公主嶺より 野菜と生鷄 入荷

新京の急激なる人口增加に伴ひ公主嶺產野菜牛鷄の到着數量は逐日激增しつゝあるが本年五月以降入荷數量は左記の如くである

	野菜 箇數	野菜 重量	生鷄 箇數	生鷄 重量
五月	六	五九九噸	一七	一,三三三
六月	三六	三,九九九	二九	二,一三〇
七月	一七	一,四九九	二一	一,三三六
八月	二三五	一三,〇〇五	三三	三,〇四〇
九月	六六七	四八,六一九	四〇	二,七〇八
合計	九四一	六六,六四一	一四〇	一〇,四五六

野菜の主なるものは葱、唐辛子、芹菜にて牛鷄は籠又は箱入一箇二〇羽乃至四十羽入

人事往來

▲大場警務局長 二十四日午後十時南行
▲森本警務課長 同上
▲水谷文書課長 同上
▲吉田浩氏（朝鮮鐵道局長）二十四日午後零時三十分發朝鮮へ
▲遠藤中佐（關東軍參謀）二十四日午後一時五十五分奉天より歸京
▲中島中佐（滿洲測量部長）二十四日午後三時二十五分哈市より來京
▲前田大佐（關東軍參謀）二十四日午後四時三十分發チチハルへ
▲張燕卿氏（滿洲國實業部總長）二十四日午後四時三十分發奉天へ
▲寺本少佐（航空本部）同
▲成澤大佐（鐵道第一聯隊）同
▲佐藤中佐（同）同
▲原田技師（關東軍司令部）同
▲柴山中佐（參謀本部）二十四日午後七時三十分奉天より來京
▲沼田中佐（關東軍司令部）同
▲西山政猪氏（滿洲國文教部次長）二十五日午前六時三十分發吉林へ
▲大藏公望氏（貴族院議員）同
▲菱刈隆氏（關東軍司令官）二十五日午前九時發奉天へ
▲塚田大佐（關東軍司令部）同
▲辰己少佐（同）同

團体

▲京城師範三級生八十七名二十四日午前十時三十分奉天へ
▲京城部筑商店四十名二十五日午前八時四十分發哈市へ二十六日午後九時十五分歸京同午後十一時發奉天へ
▲福岡縣久留米商業生六十四名二十五日午後九時十五分哈市より來京二十六日午前一時三十分發大連へ
▲紅卍會員二十九名二十七日午後十時發南行

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替
倫敦銀塊 一八片一六分一
同 遠限 一八片一六分三
紐育銀塊 三七仙二分一
孟買銀塊 五八留比八才一
米英爲替 四弗七一仙〇〇〇
米日爲替 [illegible]
米支爲替 [illegible]
スチール株 [illegible]
アナゴンダ株 [illegible]

現物 九仙七〇
十二月限 九仙四一
一月限 九仙五三
三月限 九仙五九
五月限 九仙七七
七月限 九仙八〇
九月限 九仙〇〇

▲上海標金
昨止 八二三〇 / 七九五〇
高値 八二五〇〇 / 七九三〇
安値 八〇六〇 / 七一五〇
本寄 七九五〇 / 九七四〇〇
步値 七九〇〇 / 七九二〇〇

▲上海日本向 第一回 一〇五三五〇 / 一〇五六二五
▲上海倫敦向 賣値 一志三片四分一 買値 一志三片一六分五
▲上海紐育向 賣値 三〇弗〇〇〇 買値 三〇弗八分一
▲大連金鈔票
現物 一〇九六〇〇 / 一〇九一〇〇
十月二十七日限 十一月十三日限
寄付 一〇九二〇〇
步値 一〇九一五〇 一〇九三三五 一〇九三五〇 一〇九三〇〇 一〇九四〇〇 一〇九二七五 一〇八九五〇
十一月十三日限 出來不

各地市場

▲阪神日米爲替 第一回 二八弗二分一 / 二八弗四分[illegible]
▲大連上海向 引値 一〇九三〇〇 高値 一〇九四〇〇 安値 一〇九〇〇〇 出來 [illegible]
▲大連煙台向 [illegible]
▲大阪株式 大株 同 大鐘 東鐘 新 紡 株 [illegible]
▲同短期 [illegible]
▲大連株式 新 新 新 [illegible]
▲大阪三品 當限 十一月限 十二月限 一月限 二月限 三月限 先限 [illegible]
▲大阪棉花 [illegible]
▲大阪期米 當限 中限 先限 [illegible]
▲仁川期米 當限 中限 先限 [illegible]
▲橫濱生糸 現物 當限 先限 七〇〇〇〇
▲神戶豆粕 十一月限 十二月限 [illegible]
▲カルカツタ麻袋 青麻筋 爲替 [illegible]
●大連特產 麻袋 現物 十一月限 十二月限 一月限 出來高
●大豆 [illegible]
●豆粕 [illegible]
●豆油 [illegible]
●高粱 [illegible]

新京市況

特產現物 大豆 高粱 小豆 [illegible]
錢鈔 鈔票對金票 現大洋對金票 國幣對金票 現大洋對鈔票 [illegible]

土地代の値上げは妥協で折合ひ

廿八日に地方委員會を招集　結局承認されやう

新京附屬地の土地料金については首都新京への素晴らしい發展を理由として滿鐵では中央通を始め、一部繁華街の値上を計畫し、これに對し地方委員、各區長關係借地主ではこれを不當として當分現狀維持を

『要望』して今日に至つてゐるが、これが最後の決定をなすべく來る二十八日地方事務所長室で地方委員會が招集される、即ち問題については滿鐵側では奉天安東その他との振合上から見て決して不當とは認めてゐないが、一般の反對を押切つて飽くまで原案そのままを執行すべき考へなく、一般の意嚮も參酌して原案に幾分修正を加へてこれを實施すべしとなし原案に依る最高

一學二級方の値上を一級方に止めることに內定して即ち今度の

『原案』によると例へば一坪一錢のものが一錢二厘を超え一錢五厘に二級方の値上げすることになつてゐたが、之れを一學一錢五厘を見合せて一錢二厘に止めやうといふのである、双方の歩み寄りに依る妥協案とも見られる、當局ではこれによつて充分折合がつくものと見てゐるが、新京最近の情勢から見て幾分の値上げは當然止むを得ぬものとされる、これで双方の顏も立つので來る地方委員會では大体右妥協案を認めてこれを承認し答申されることになるものと見られてゐる

貨物車の盗難

二十五日午前零時頃南新京驛通過の貨物列車中に盜難形跡あるを車掌が發見新京驛到着と同時に詳細なる調査を行つた處前方より第二十輛目の奉天發吉林行貨車右側が破損されてゐるのを發見直に貨物方に引繼ぎ內部の調査を行つたが未だ品名個數不明である、然し係員の血眼の搜索によつては犯人の目星はついたものゝ如く近く逮捕の見込である

常盤旅館に投宿中を井上刑事が取押へ目下同署に留置中である

殲滅か潰走か

吉林匪賊に凋落の秋

〔吉林廿四日發國通〕千古不斧の鬱蒼たる大森林を背景とし跳梁を逞うして良民の安居樂業を脅かしつゝあつた吉林省數萬の匪賊にも凋落の秋が迫つてゐる、今月中旬より秋錦嶺の吉林山岳地帶に展開された廣瀨部隊と高波部隊の討匪陣の前に殲滅か潰走かの運命巳に定まり拉賓線一帶に暴威を揮つてゐた太平匪二千は風を喰つて遙か蘇滿國境指して逃走中とあり老爺嶺峽谷には附近に幡居してゐた合流匪二千集結し歸順の意を表してゐるとか云ふ、吉林省の中原今や匪影なく各地方に蠢動して居る匪賊また彼等が唯一の逃避地と頼む密林も落葉し迫ひ迫る討匪軍と寒氣の前に漸次解消分散し影を沒するに至るべく、斯くして收穫期を了へた農民の冬籠りの夢も圓らかになるをまつて吉林討匪行全省肅正の戈はをさめられるであらう

マッチ製造の際爆發性の劇藥をさかした鑛器で其の劇藥が附着してゐたのが自然摩擦によつて爆出したものと見られてゐる

新京驛の爆發事件

鑛器の摩擦から

既報二十三日午前零時三十分頃新京驛構內に於て大連沙河口渡邊運送店から吉林燐寸會社宛發附の鑛器長さ三尺一寸巾二尺七寸、厚さ六分の貨物が、吉長線に積換中、突然大音響と共に爆發した事件に付新京鐵道事務所では新京署と協力其の原因に付目下調査中であるが該鑛器は燐寸會社で

詐欺三犯人捕はる

鄭家屯館事館警察署から詐欺犯人として手配中の奈良縣生れ奉天省遼源縣鄭家屯新市場後藤直湜（三七）同北海道生れ同上中山義雄（二四）同上福本猛敏（二七）の三名は市內に潜伏し、廿四日午後十時新京發列車で後藤、中山が逃走せんとしてゐるを新京署中本刑事が發見取押へた、一方福本は

不良な邦人を

ブラックリストで取締る

領事から退去命令

滿洲事變後急增した邦人數は十五萬と稱されてゐるが最近滿洲景氣に乘じて入滿する者の中には相當不良分子も混入し、日本人の体面を汚し或は滿洲國の發展を阻碍するが如き行動を爲す者往々あり、領事館、憲兵隊及び警察署に於ては豫てよりブラックリストを作り不良邦人の行動を內偵中であつたが、各機關の調査報告も略々纏つたので近く關係當局參集の上之が處分に關し大協議を遂げることになつた、確聞するにブラックリストに記された邦人數は全滿でかなりの數に上る模樣であつて、當局の方針は

一、秘密結社を造り政治的策動を爲し大局に禍を及ぼす者

一、日滿大官の名を濫用し、不正利權運動を爲す者

一、他人に對し妄りに金錢を强要し或は詐欺脅迫に類似すゐ行爲を爲せる者

一、風俗を紊し或は日本人の体面を汚すが如き行爲を爲せる者

一、滿洲國の發展を阻碍するが如き言動を爲せる者

等に對し苛責なく鐵鎚を下し領事の名を以て退去命令を喰はす筈で、本年中には全滿邦人の廓淸を見ると云はれてゐる

軍旗保持者の驛構內入場でまた問題惹起

岐阜驛の出來ごと

〔岐阜廿四日發國通〕大阪のゴーストップ事件が未解決の儘紛糾を續けてゐる折柄今度は岐阜市に於て鐵道驛員が軍旗保持の軍隊が驛構內へ入場する事を拒否したため驛柵を切斷して入場したと云ふ問題が起つたが問題の起りは去る二十二日大演習御統監のため同驛御通過の陛下を御迎へのため軍旗保持の將兵が岐阜驛表口から入場せんとしたが驛入場係が之を拒否し驛員通用口から入場せよと云つたので軍隊側は苟も軍旗を保持した軍隊に裏口から入場せよとは侮辱も甚だしいと憤慨し鋸で構內の柵を切斷し入場したもので事件が事件だけに今後の成行きは注目されて居る

聯盟調査團暗殺計畫犯人の不逞鮮人公判

〔大連二十四日發國通〕リットン卿以下の國際聯盟調査團の來滿を機として、天津に於てこれを暗殺日滿兩國を國際的窮境に陷入れんとした不逞鮮人柳相根は大連地方法院に於て、取調べ完了公判に附せられる事となり、來る二十六日藤崎裁判長係り井間檢察官立會ひ杉野辯護士出廷の下に開廷されるに決定した

松田補習學校長の榮轉

新京實業補習學校長兼青年訓練所主事として青年教育に盡瘁した松田嘉兵衛氏は今度新設の奉天平安尋常高等小學校長に榮轉確定し近く發令になる筈であるが、平安尋常高等小學校は目下建築中で明年一月開校するものであるがそれまで同氏は彌生小學校にて開校諸般の準備にあたるとの事である

後任として撫順實業補習學校長辻松太郎氏來任に決定してゐる

商業選手

柔道の猛練習

全滿中等學校柔道大會に出場をなす新京商業學校選手は二十四日より毎日放課後猛練習を行ふことゝなつた、右選手は野呂、森下、小林、張、大隈、北山、森田、藤本、石田川口、猪尾、山根、立林、松並田中等の諸君である

神宮競技參加の滿洲國選手出發

明治神宮の競技に參加すべく滿洲國代表選手十一名は監督茂木善作氏に引率され二十四日午後四時三十分發の列車にて出發した（寫眞は出發の一行驛にて）

注目される

二十五日のリーグ理事會

早慶紛擾の動向

〔東京二十四日發國通〕早慶紛擾に關する野球リーグ理事會は二十五日午前十時より神宮球場に於て開催されることに決定した、リーグ當局としては此の理事會を二十二日の紛擾に對する善後處置考究に留める意圖だが慶大側は學校當局並に野球部一部の一致せる强硬意見で理事會に臨み徹底的解決を主張するものと觀られてゐるから當日の會議は一波瀾あるものと豫想されてゐる

慶應應援團調停を斷る

〔東京二十四日發國通〕六大學應援團聯盟は早慶紛擾の調停に乘り出したが同聯盟の六代表が二十四日三田に慶應大學の應援部を訪ひ慶應側と會見したが慶應側は應援部のみの問題でなく學校當局の問題となつた今日調停には應じ兼ねるとて會見を了つた、慶大側は二十五日のリーグ理事會で凡てを處理することとし目下靜觀中である

商業の兎狩

愈よ二日に

二十五日行ふ豫定であつた新京商業學校の年中行事の一つである兎狩は都合により日延べになつてゐたが嚴寒でない限り來る十一月二日午前七時

四日發熱二十四日腸窒扶斯と決定入院

▲永樂町三丁目二十七番地ノ三益田眞雄氏二十四日赤痢と決定

牛同校出發、南嶺東部伊通河上流で行ふことゝなつた

京樂の明石

奉天で捕はる

自殺の遺書を遺き去る五日行方を晦した城內東三馬路料亭京樂こと宮崎松男氏抱へ藝妓明石こと辻千鶴子（一七）はその後杳として行方不明であつたが二十四日奉天署員に取押へられた旨新京總領事館警察署に通知があつた

屋島丸の遭難者

廿四日現在迄に百廿一名

〔大阪二十四日發國通〕屋島丸の遭難者は二十四日午後一時現在迄の總人員百二十一、生存五十六、死体發見五十、行方不明九、と判明した

金泰洋行特選の毛布月賦賣

日本橋通り金泰洋行では今度同店特選の日本毛織株式會社製の純毛ラクダ二枚つゞき毛布の四ケ月分割拂の特賣を開始したが値段は左の通りでこれは現在より毛糸値の安い時に同社と特約したので値段にくらべ非常に良品であると値段は十八圓、二十圓、二十二圓廿四圓、卅圓、四十圓の六種類

慈善大演藝會の第二日目のプロ

初日は卅日夜長春座

來る三十日と三十一日の兩夜長春座で滿洲托兒所基金募集に滿洲國協和會、滿鐵社會係新京聯合婦人會、新京日報社新京日日新聞社の後援で催される日滿聯合慈善大演藝會は篤志家の出演夥しく非常な人氣を沸きたゝせてゐるが第二日三十一日のプログラムは左の通りである

二日目（三十一日）

一、鳥盆計、法螺換子、傀儡人、青双倫、天順班、文妹同瑞雲令唱五家坡

二、筑前琵琶「大石主税」旭花山、泉旭春師

三、箏曲「楓の花」箏　中島幾子師、大橋田子師、尺八西田方山師、秋元舊山師、新宅柊山師、松山千山師、具通丸山師、中村孜山師、大橋雅博師、兒玉方道師、大本芳遥師、永出順山師

四、琵琶人童師「一寸法師」「桃太郎」旭花山、泉旭春師童踊は、田中菊枝孃、福澤文子孃

五、滿洲藝妓の「梅花調」と「連營寒」西群仙、牡丹、佩芝

六、のイ長唄「楠公」千草連中唄　歌六、千代香、三味線岡安喜代秀師、三千代、照葉、里千代、ロ、小唄、正調博多、米山、山中節、唄　歌六、千代香、三味線、里千代、三千代、照葉

七、長唄「鳥羽の戀塚」岡安連中、唄　喜代秀師、艶子師、三味線、喜代八重師、喜代登幾師、喜代技師

八、義太夫、忠臣藏六段目、「勘平腹切」吉衛、三味線、鶴澤六三師

九、義太夫「三勝半七酒屋の段」鶴登、三味線、鶴澤六三師

十、郡山流尺八、本曲「湖上の月」一部、西田方山師、新宅柊山師、大橋雅博師、大本芳遥師、兒玉方道師、二部、松山千山師、具通丸師山師、秋元舊山師、中村孜山師、永出順山師

十一、常盤津「花翫曆色所八景」開花連中、立方、千玉、唄　色子、若次、琴松、一松、ひさ子、三味線、千太郎、萬彌、豊作、千惠丸、豐年

十二、「東京音頭」其他、嬉野連中、小萬、染千代、一子かせん、八千代子、光丸、米吉、玉千代、高代、市丸小千代、咲丸、桃太郎、ほたん、〆勇、正菊、菊彌、おし津、〆千代

十三、長唄「供奴」彌生連中、立方、蝶々、唄　君香、笑香、清香、信香、梅香、三味線、松吉、秀香、雪香、峰香、百々香

蔬菜入選

三等に二名

滿鐵地方部主催の下に去る二十、二十一兩日公主嶺で開催された第十八回蔬菜品評會では新京地方事務所管內から內菜

傳染病發生

▲永樂町三丁目二十一番地加藤茂三氏方孫田彰太郎氏十

▲同日午後三時四十分二○町四丁目二十二番地先路上鰐皮模樣入二ツ折蟇口一個

街の日記

軍事美談

愛國の母

長春座は二十五日と二十六日の兩夜軍事美談愛國の母と題する映畫にいろいろおもしろい時代劇映畫を加へて上映する、入場料は特等五十錢一等三十錢軍人學生半額であると

旅客事務競技會

廿六日開く

新京鐵道事務所管內では既報の如く旅客事務の趣味普及及技倆練磨の目的を以つて行ふ旅客事務競技會は二十六日午後一時より公主嶺驛で開催されるが新京鐵道事務所より評

者として田中營業長、高橋旅客主任及福島社員出席の筈である

傷病兵通過

二十五日午後三時二十五分ハルビンから傷病兵六名が後送され來り同四時半發列車で湯崗子溫泉へ療養に赴いた

三福樓の藝妓ドロン

新京城內西五馬路酌婦料亭三福樓こと江崎ユミさん方抱へ酌婦ランチことと鷹島トミ（二三）は二十四日午後三時半ごろ外出したまゝ夜になるも歸宅しないので搜査方を新京總領事館警察署に屆出た

新京署射擊大會

新京署員の第三習射擊大會は二十五、六兩日陸軍新射擊場で擧行

盗難屆

▲市內錦町二丁目八番地滿鐵社員井手秀六氏二十三日午後一時から同四時三十分の間滿鐵新京保線區內に掛けてあつたオーバー一着を窃取された

▲市內三笠町三丁目七番地印刷材料店北原廣氏方荷車一台（中古）を二十四日午後七時三十分ごろ窃取された

拾ひもの

▲二十四日午後四時三十分羽衣町、西二條通交叉點、腕時計一個（クローム側トレックス九型）

▲同日午後五時吉野町二丁目三番地先路上、茶色コールテンズボン一着（新品）

落しもの

▲奉天霞町三十一番地佐藤太郎氏は二十四日午後三時十五分ごろ新京驛ホームで金側懷中時計十八型金鎖、メタル二十二金時價七十圓

▲永樂町三丁目十五番地高須繼一氏方雇人金童雲二十四日午後零時二十分新京百貨店前で朝鮮銀行十圓券一枚

▲中央通三益澤寮二十九號草場芳男氏二十四日午後五時ごろ滿鐵病院に行く途中製圖機一個

居住消息

▲遠矢心一氏（鹿兒島縣人）錦町三丁目九ノ三へ

▲林信三氏（東京府人）和泉町三丁目二番地へ

▲藤田常次氏鐵嶺から錦町二丁目十番地二號社宅へ

▲德江信幸氏（宮城縣人關東軍雇員）永樂町二丁目四番地へ

▲富川源六氏（千葉縣人保險會社員）公主嶺から老松町六番地へ

▲淺香秋夫氏（兵庫縣人）曙町二丁目十二番地へ

▲石島岸雄氏（栃木縣人會社員）大和通四十三番地航空會社航空寮へ

▲寺崎壽雄氏（佐賀縣人）同上

▲平尾五八男氏（福井縣人會社員）曙町三丁目二十四番地へ

▲元井定榮氏（新潟縣人土木業）京城から曙町三丁目二十四番地へ

▲山川改一氏（長崎縣人）同上

▲西郷正憲氏（東京府人）吉野町二丁目十番地へ

▲平林鉄雄氏（長野縣人）大連から吉野町二丁目十番地へ

▲香ヶ岩雄氏（福岡縣人發電所運轉手）吉野町一丁目十九ノ二番地へ

▲西岡有美氏（長崎縣人運轉手）蓬萊町一丁目二番地へ

▲朝比奈守男氏（東京府人）六馬路長通路十一號中野方へ

▲齊藤梅吉氏（大分縣人）大連から曙町二丁目二十五番地へ

▲中田與四太郎氏（富山縣人滿鐵員）昌圖から新京驛運轉所へ

▲福間利雄氏（福岡縣人時計職）木浦府から富士町二丁目へ

▲池田庄平氏（中銀守衛）執政府前通りから富士町二丁目五番地豐順棧內三十三號室へ

▲小石清馬氏日本橋通り三十八番地から錦町二丁目十番地滿電社宅二號舍へ

▲鈴木英三氏西寬城子から同上へ

▲小野六郎氏八島通り一ノ三番地から錦町二丁目十番地滿電社宅二號ノ四十八へ

▲圓城子半藏氏曙町二ノ二十四から新京崇智胡同三百十二號へ

▲馬込信一氏祝町二丁目十九番地から新發屯集合住宅二十六號へ

▲阿部善雄氏敷島巽第八十三號から和泉町元吉林建設事務所構內合宿所へ

田村源吉氏令妹

新京地方事務所土木係田村源吉氏の令妹西村たゞさんは吉野町一丁目一三ノ三田村方で病氣中のところ二十四日午前十時半かねて心臟瓣膜病で療養中のところ二十四日午前十前逝去した享年五十三、葬儀は二十五日午後四時祝町西本願寺で執行

けふの銀相場

鈔票對金票	九五二五
現大洋對金票	一〇三四九〇
國幣對金票	一〇三四八五
現大洋對鈔票	一一四〇五

慶安異聞 艶魔地獄

(舞台上演映畫化) 玉水三郎 (繪) 長谷川小信

(七十五)

町奉行招待 (二)

之をキツカケに、一同入浴となつて、それが終ると白縮緬の浴衣が出る。着更へた主客を、池邊の水亭へ腰元が案内する。夏らしい淡味な料理が出て、盃の數が重なる。

來賓である酒井因幡守、普通の人物であつたら、此馳走を喜んで青山主膳の好意を喜ぶであらうが、因幡守は清廉潔白。旗本仲間でも有名な人物だけに、心中には、

「今日は普通の招待でないぞ。旗本仲間であつて、而も加賀爪の紹介だから、默つて來たのだが、コリヤ何か爲にする所があるのではないか」

早くも覺つて了つたから、打解けてゐる中に、注意を怠らなかつた。

小船には何處から連れて來たか美しい腰元が絃歌を奏して、水亭の下を過ぎる。主客陶然として好い氣分。

態ご馳走になると、築山の石燈籠や、雪洞に、灯が點るといふ趣向。

青山主膳は世間話に、花を咲かせて、加賀爪甚十郎と共に、笑ひさゞめいてゐたが、因幡守の耳熱したるを見て、もう好い頃と思つた主膳。

「さて酒井氏、御同樣町奉行などいふ役目は、隨分人に憎まれて、あらぬ恨みを買ふ事もあり、迷惑致す事もござるの」

切出すと因幡守。

「左樣、然し又冤罪を明かにして露はした時は、其囚人始め關係者に喜ばれる事もござれば、先づ五分々々と申すもの」

「それも一理ござるが、現に罪ある者が、世に潜み居るを知りながら、之を罰する事の成らぬも殘念なものでござる」

「ナニ罪ある者が……青山氏、何か左樣なお心當りあつてか」

「されば拙者勤役中、取扱つて居た事件。而も拙者邸に關係ある者ゆゑ、其儘に致し置くので、誠に心よかず存じ居る」

「イヤ之は不思議。して其罪ある者とは、如何なる人物にや、身共も町奉行として、聞き流しには相成らぬ。何卒一應お話しを願ひたい」

思ふ圖星に中つたので、主膳は得意滿面。

「斯樣な事は口外致すまいと存じ居つたが、つい酒興の上口に出て、且酒井氏のお尋ねを蒙つたる上は、最早包み隱すこともなるまい。聞く者は拙者召仕ひの女のみなれば、お話を致すであらう……加賀爪氏にもお聞き下さい」

三人膝突合はせた。主膳は無念らしい面色。

「拙者奉行職御免を願つた當時、引き際の大捕物として、大阪の落武者にして、將軍狙撃の謀叛人たる、高坂甚内を召捕つたる事、何人も知る所でござろが……」

「成程々々」

「甚内は牢死、その娘兩人は奴遊女、奴奉公人と致して、其結末は附き申したが、後日に至つて同類人の殘黨あるを承知した」

「フーム、それは一大事」

「高坂甚内の娘菊なる者に、既に其人小島三平、二人の仲の一子十松と、此兩人が根岸に居りたるを存ぜざりしは此青山主膳の落度」

「イヤ／＼あれ程の曲物、以前より用意して、餘類の一人や二人、隱しあるを御存知なかりしは當然」

「其兩人が近來厚面しくも、江戸場末より市內中央に出で、公然生活致し居るを見て、許し難き者と實は先日より、よう／＼に目を着け居つたるが、今は無役のそれがし、之を召捕る譯にも參らぬ」

酒井因幡守は「ハヽア此ことだな」と頷いた。

大正九年十一月十四日　第三種郵便物認可

新京日日新聞

陸軍特別大演習

大元帥陛下 畏し、雨中に御統裁

兩軍將校に御下問遊ばさる

〔福井二十五日發國通〕大元帥陛下には演習第一日の二十四日南北兩軍の激戰を約一時間餘に亘り御乘馬白雪に召され御親察遊ばされたが、折柄兩軍の主力は既に衝突の溝筋を隔てゝ對時し機關銃の響き間斷なく耳を聾するばかりの激戰で　陛下には前後約十回御愛馬を止めさせられ北軍中隊長栗栖大尉を始め兩軍の將校に御下問遊ばされた、かゝる御下問を仰ぐ事は大演習始まつて以來の事である戰線にては此日時雨があつたが　陛下にはマントも召されず御巡視の上御歸路に及ばせられた

野外統監部へ御成

〔福井二十五日發國通〕陸軍特別大演習第二日目の二十五日大元帥陛下には午前七時四十分野外自動車鹵簿にて大本營御發、八時二十分野外統監部へ著御、兩軍の御統監のため十時五分還御、午後は大本營にて御統裁遊ばされることになつた

壯烈極まる爭奪戰を展開

北軍敵陣地に肉迫

〔福井二十五日發國通〕南軍の第一線は九頭龍川の陣地構築を了りこれに對し北軍は追擊また追擊し、九頭龍川の右岸平野に進出し雙方より空軍を交へ陣地爭奪戰は展開され九頭龍川渡河點の壯烈な爆破が行はれた

北安鎭に警察分署

十六名赴任

黑龍江省北安鎭にチチハル領事館警察分署開設され、二十三日分署長山路警部補以下十六名赴任した

民政黨側の小橋、富田、俵の諸氏と政友會の有志との間に折衝を重ねて居つたが、政友會の久原、島田兩氏と民政黨の富田、俵の兩氏が某所で會見し、政黨聯合に對する具體的意見の交換をなす所あつた結果民政黨は主腦部會議を開く事となつて居るが此の運動は政民兩者の間に諒解が未だしつかりしてゐないものあるため如何なるかは疑問の目を以て見られてゐる

日英綿業代表 近く共同聲明

兩氏の會見取止め

〔デリー廿四日發國通〕日英綿業代表の共同聲明に關し日英當業者は連日の如く文書の往復が行はれて居るが英國代表は二十五日午前八時五十分の汽車でデリー出發ボンベイに向ひ二十八日發の船で歸國の筈で二十四日は午前午後と二回に亘り倉田氏と英代表間に打合せられたが、然し右形式に就き意見一致せず廿五日中に決定せぬ模樣、尙期待され居るクレアリース氏と倉田氏との會見は時間なく取止めとなるものと觀られてゐる

印度側頻りに會議

〔ニューデリー二十四日發國通〕ボーア商務長官、ノイス勞働局長官の印度政廳代表三名は二十四日午前十時より前後二時間に亘り日本代表部への回答につき重要協議を遂げたが澤田、ボーア兩首席代表の私的會見に就て廿午後二時に至るも印度代表部より何等の通告無く會見日取は判明してゐない

印度側の回答

廿五日に延期

〔デリー廿五日發國通〕日本の提議に對し印度政府は廿四日閣議の結果直ちに日本へ回答する事になつてゐたが、廿四日正午マイデン・ホテルの印度代表クリアリース氏の午餐會に澤田代表、ボーア長官も招待され、座談的に協議の結果廿五日午前十時ボーア長官がマイデン・ホテルに澤田代表を訪問し、印度の回答を傳へることに變更された

蘇聯邦國營企業に 果然、重大危機

五ケ年計劃全く破綻に瀕し 飢餓に喘ぐ失業群

信ず可き筋よりの情報に依れば、蘇聯邦政府の過激なる組織變革と時態民心を顧慮せざる五ケ年計劃強行の結果は早くも局部的に破綻を釀しつゝあるものの如く『國營』企業たる穀物企業同盟、牛肉企業同盟、極東炭業同盟、極東林業同盟、種苗同盟、食料業同盟、漁業トラスト、漁業營膳トラスト、魚肉加工同盟、石油トラスト等は、其の中僅かに數個を餘すのみにて他は全部未完成の儘拋棄するの止むなき狀態に瀕しつゝあり、其の結果は蘇聯邦經濟政策に重大なる危機を招來し、蘇聯當局は拾收す可からざる苦境に惱んでゐる由である、尙仄聞する所に依れば五ケ年計劃と蘇滿國境地帶の軍事的防禦工作が一段落を告げた爲、モスコー、レーニングラードを中心に飢餓に彷徨する『戰線』失業者五十萬を算し失業群は漸次極東方面に流込まんとする形勢にあり、背政に泣く是等失業大衆はゲーペーウーの嚴重なる監視を逃れ滿洲國の王道善政を慕ひ續々と滿洲各地に潛入せんと企圖しつつある模樣である

矢田公使は滿洲國入りか

參議に懇請されん

〔東京二十五日發國通〕スキス公使矢田七太郎氏は賜暇歸朝で月末ベルン發歸國するが歸朝の上は外交方面擔任の滿洲國參議に就任方懇請されん若し受諾せば其の後任には米大使館參事官武富敏彥氏かニューヨーク總領事堀內謙介氏が有力視されてゐる

心ぼそい政黨聯合

政友救濟は眞ッ平御免だ

眞裸で來るならと 民政黨反對

〔東京廿五日發國通〕民政黨では政黨聯合運動に關し富田幸次郎、俵孫一兩氏が政友會の久原房之助、島田俊雄兩氏と最近會見懇談してゐるので此の結果兩氏より黨最高幹部に報告之が『對策』を協議の爲め三日中に會合する事になつてゐるが政黨聯合運動に關する黨幹部の大體の意見は、政民兩黨が眞つ裸體になつて眞劍に時局匡救の爲の政黨聯合運動であるなら反對する必要は認めないが現在の政黨聯合運動は

一、政友會は鈴木派、反鈴木派に分れ此のまま推移する時は黨內の統制を保持する能はざる苦境に在り、其の黨內狀勢を政黨聯合の名の下に統制せんとする對內策の爲の運動で眞に時局の重大なるを自覺して居ないこと

二、假に政黨聯合運動を起すにしても何の爲の聯合が其目的が無く自然政權獲得の爲の運動の如く見られること

三、民政黨は齋藤內閣成立當初から非常時局打開の爲誠心誠意支持し來つた、其政黨が政友會と聯合して現內閣を倒す事は政治道德上又理論上絕對に不可能な事

等の理由で反對してゐる、殊に若槻總裁は第三點の政黨聯合即ち齋藤內閣打倒には如何なる事があつても『同意』することは出來ないと固く信じてゐるのであるから現在行はれてゐる、政黨聯合即ち政友會救濟を目的とする事を改めざる限り民政黨聯合に反對する事確實であると稱して居る

聯合問題成否疑問

〔東京廿五日發國通〕現下の時局を認識し此の非常時局を打開し憲法政治を擁護して行くには政黨が協力してやつて行くより外ないとの見地より

「民政黨が乘氣」

政友は積極に出て居らぬと 政友首腦部の意向

〔東京廿五日發國通〕政黨聯合問題に關する政友會首腦部の意見は政友としては政黨の信用を恢復する爲には『政策』本位、[illegible]本位で進まねばならぬ故に政府に提示した國策を民政、國同にも示し『斯樣な譯で政黨の聯合を希望して居るので之に依つて政友會の擴大を圖るとか黨の對內策とか云ふことは絕對にないのである、此精神から我黨の人が民政黨の人との間に種々協議して居るかも知れないが島田君が會つたと云ふことは聞いて居ない』と云つて居り『政友』會としては寧ろ民政黨が乘氣で積極的に出て居るとして居る

米人醫師と共に 鳥畑指導官も歸る

岫巖縣城外の匪賊拉致事件

―昨日記事解禁

去る四月十一日午後十一時頃三角地帶岫巖に蟠居する劉景文の一味匪賊頭目『鵬飛』の爲拉致され、春夏秋にかけ奥地を轉々と引廻はされ生命の安否を氣づかはれた岫巖縣城外西方西山病院醫師デンマーク系米人ニールスン氏(五八)は日本軍の討伐に狼狽する匪團の隙に乘じ死線を冒して脫走十月廿五日午前二時岫巖縣日本守備隊に避難した、これより先同人救出のため九月十六日二道子嶺に於て鵬飛と會見中匪團のため監禁されたまま生死不明を傳へられた同縣鳥畑指導官は十月十九日同樣毒牙を免れ脫走し來りこゝに半歲餘に亘り營口の『英人』拉致事件に次ぎ國際的センセーションを捲起したニールスン氏拉致事件はここにはじめて新聞記事の掲禁を解かれ外人を狙ふ匪團の全貌が白日下に暴露された事件の概要別項の通りである

天氣と氣溫

けふの天氣南西の風晴一時曇
きのふの氣溫最高十度二最低零下三度

拉致前後の事情

四月十一日午後十一時頃西山病院に負傷者の診療を求める若者があつたので醫師ニールスン氏は患者を診んものと玄關口に立出でたる所戶外に潛伏中の匪賊卅余名矢庭に『屋內』に闖入、同人を有無を言はせず縛し上げ何れにか拉致した、當時病院內には外人三名、滿人使用人十名在つたが、電話の設備なく且夜半のため危險を恐れて夜を徹し、翌十二日午前七時となり漸く日本軍守備隊に屆出たもので急報に接した同隊は日滿警察隊と協力追跡したが時既に遲くニールスン氏は杳として消息を絕つた、尙匪賊は病院勤務者に對し「二週間內に現金五十萬元、拳銃、望遠鏡等を後日指定する場所に『持參』すべし、然らざればニールスンを殺害さるゝと承知すべし」と脅迫狀を手交した被拉致者ニールスン氏は同地に廿年間宣敎師兼醫師として聲望を集め何等怨恨を受くるが如き事實なく、匪賊は時恰も營口に起つた英人拉致事件に刺戟され、之に倣つて日滿對米國の關係を險惡に陷らしめ、更に身代金をせしめんと畫策せるもので、鵬飛の脅迫狀は矢繼早に日滿警備當局に對し發せられた

救出交涉に向つた 鳥畑氏も拉致

二道子嶺の會見所で

日滿當局の猛烈な救出運動と積極的討伐計畫に匪賊は要求身代金を十八萬元から十萬元に値下げするに至り救出の前途に漸次『曙光』を認められるに至つたので鳥畑岫巖縣指導官が最後的使者として指定された二道子嶺の會見場所に向つた、鳥畑指導官一行は通譯崔德洪、從者富景尉及び皆川修太郎(元國境警察隊員)計四名と警備員五十名で九月十六日午後三時頃目的地に到着したが交涉の都合のため警護兵を約二支里手前の地點に留め後三家子の一民家にて五、六十の部下を率ゆる目頭鵬飛と會談中突如匪賊に縛し上げられた、鳥畑氏はこの不法を詰つたが聞かれず孤子溝方面に拉致されたが匪首は『皆川』氏と從者に對し「汝等は交涉員でないからこれを持つて歸れ」とて釋放、一萬五千元を四日以內に提供すべしと記した要求書を手交したこれに對し皆川氏は「俺を人質とし鳥畑氏を釋放せよ」と繰り返し要求したが匪賊の容れる處とならず已むなく警備隊と連絡を取るべく不本意乍ら鳥畑氏と別れて後髮を引かれる思ひをしながら歸路に就いた

油斷を獲へて魔手を捉出す

匪賊、皮算用に終る

鳥畑指導官よりの書翰は監禁の一週間後一農夫の手によつて日本守備隊及び縣公署に齎らされた、これによつて匪賊の卑劣極まる行爲に憤慨せる日滿當局は最早これまでなりと愈よ徹底的討伐の決意を固めるに至つた、早くもこの『形勢』を察知した匪賊はニールスン氏と鳥畑氏を引離しニールスン氏を縣外の鳳城に、鳥畑氏は立子溝に夫々連行、日本守備隊に對し「日本軍が如何に攻擊するとも滿洲國に對しては毫も破壞的行動に出でず又日本軍に對しても親善せんことを希望する要は金錢のみなり最後に聲明するは徹底的討伐は斯の如き山岳高く道路險惡なる地點にありては困難なり、如何にしても『金錢』を屆けるに如かず」と弱り切つて本音を吐いて來た斯くて日滿當局と匪首との間に救出條件折衝を續ける內天は匪賊共に味方せず拉致された兩氏は匪賊共の油斷を巧みにとらへて相前後して魔手の脫出、無事歸還し結局一と儲けを夢みた匪賊の企らみはあつけなく外れて狸の皮算用に終つた譯である

双龍台に宣撫工作

新京治安維持會の決議にもとづいた新京警備隊では來る廿九日より、向ふ八日間双龍台(新京西方四里)地區に於て治安工作を實施する事となつたがこれと同時に宣撫工作をも實施するに決し、施療班宣撫班各一ケ班を滿洲國情報處より派遣する事となつた

昨年に較べ素晴らしい勢

特產出廻り活況

新京鐵道事務所管內の特產持込貨物の狀況は既報の如く奥地よりの輸送特產と共に最近其の出廻りが著しく活潑となり『貨物』係では大繁忙を極めて居る、二十四日の如きは最近のレコードを示して一萬百六屯に及び昨年の最高記錄十月十六日の八千四百七十屯に比し悠に三千屯を突破し、今後は益々活況を呈するものと豫想されてゐる、これは本年は周知の如き豐作で先安を見越して一時に持込んだ結果と又例年の如き中央銀行の買しめなき事が主なる起因をなしてゐるが主として開原、鐵嶺、昌圖、公主嶺等の持込であるなほ奥地よりの『南下』輸送の特產は天候不良のため稍々停滯氣味であるが例年の狀況より見て來旬頃より漸增するものと豫想されてゐるが、然し大体に於て九十車及至百車見當である

米日爲替大暴騰

〔ニューヨーク二十四日發國通〕本日の當地米日爲替は一擧に一弗方大暴騰を演じ二十八弗七十五仙となつた、氣配軟弱

香港丸內地へ

茂川大尉赴任

〔大連二十五日發國通〕關東軍司令部附より陸軍大臣官房に轉勤した茂川大尉は本日香港丸で赴任の途に就いた

中島比多吉氏

〔大連二十五日發國通〕退官した前執政府禮官中島比多吉氏は二十五日出帆の香港丸で內地へ向つた

藤根國道局長

〔大連二十五日發國通〕滿洲國々道局長藤根壽吉氏は夫人の病氣療養のため約一ケ月の豫定で二十五日大連發香港丸で內地へ向つた

東亞の大樂土、建設への躍進
今や王道政治遍く
滿洲國へ續々編入を要望
力强いこの歩み

最近西北部滿蘇及外蒙國境並西南部與支那境方面地方當局よりの報告によれば、蘇聯及支那側の壓迫又は苛斂誅求に堪へ得ず

滿洲國の王道

政治を慕つて移住、又は局部的に滿洲國に編入方要望し來るもの少なからず、甚しきに至つては數家族又は十數家族相率いて不正入國を企圖するものもある實情にて極東蘇聯及國支國境（主として興安地區）隣接地域の住民が如何に苦惱しつゝあるか察するに難からず、政府當局に於ては之が對策を愼重考究中であるが滿洲國成立以來國内の治安漸次平定し百業興起の機に乘じて日本及朝鮮方面より新天地開拓のため個々又は

團体的に移住

し來るもの相當數に及び各國の對滿投資熱亦日一日と白熱化しつゝある現狀にて滿洲國が事實上東亞の樂土建設に向つて躍進しつゝあることは以上の事實に依つて力強く實證されつゝある譯である

菊かほる秋
われ等の西公園の誇り
近く一般に賣出し
本年は種類もうんと多い

西公園の最大の誇りとしてゐる菊花も昨今六分通り咲き初め一般にこれが賣り出しを待望されてゐたがいよ〳〵來る二十八日九日の兩日午前九時から午後五時まで公園事務所内で菊花並びに

『花卉』類大賣出しを西公園事務所主催で行ふ、本年は例年に比し非常に出來がよく種類も多く一鉢一圓位から最高五圓まであると、菊、名は朝晴の雪（赤、白、黄）春興殿（黄）金龍波（赤）白世界、大和錦、遊仙閣（赤樺）蓬萊山（桃）大王冠精輿の玉、秋の光、見頭御狩土産、天蓋秀、慶雲、懸崖物としては北斗座（赤）其の他二十種類に及び花卉物としてはゼラニユーム、ゴム樹、ケンチヤ、プラチセリウム、アスパラガス、フエニツクス、仙人掌糸らん、日本らん、コリウス等であり、なほ同所では

『菊花』の一般普及の意味において毎年執政、滿洲國側大官連中、軍司令官等地方事務所長の名儀で贈呈をなしてゐるが今年も例年同樣贈呈するはず

柔道大會申込

滿鐵運動會新京支部主催の全滿鐵段對抗柔道大會は十一月五日午前九時から新京商業學校場で行れるがこれの參加申込は十一月二日までに正選手五名、補缺選手二名外監督一名明記の上新京驛大越兵司氏宛に申込まれたいと

朝日タクシー運轉手
情狀酌量さる

去る十九日午後二時四十五分ごろ市内西二條通、平安町交叉點で菱刈大使の退出で沿道警戒中の新京署オートバイと市内富士町一丁目朝日タクシーの衝突事件に就き同署司法係ではタクシー運轉手松田治三郎（二六）に就き取調べた結果、過失は認めるが情狀を酌量し嚴重說諭に止め破損オートバイは運轉手側が修繕することにした

提琴家來連
フリードマン氏

（大連二十五日發國通）世界的ピアニスト、フリードマン氏は二十五日うすりい丸で來連したが語る

大連には上海の興行家ストローク氏の斡旋で來ることになりまた、六歲の時からピアノを始め今年五十二歲でずつとやつてゐますが未だ滿足な所に達しません、東洋はプラトニツクな所と聞いてゐたので豫ねてから憧れてゐましたが今回希望を達し得、今夜大連で演奏し明日天津へ行きます

大隈校長就任式

新校長を迎へた新京公學校では廿六日校庭で朝會（九時）の際大隈新校長の就任式を行ふ

競馬場まで
自働車賃一圓六十錢に値下げ
一人五十錢の切符も發行

新競馬場行の自動車賃は自動車組合の規定により從來一圓八十錢であつたが今回競馬クラブで組合と接衝の結果一圓六十錢に値下げに決定した、同時に競馬開催期間中は競馬場で一人五十錢の切符を發行四人に達すれば一台を運轉させ各自自宅まで送りとどけるといふ設備も競馬場に設け競馬ファンの利便を圖ることゝなつた

聞くも涙のたね—
不遇に泣く彼
城内に住む大賀龍吉さん
邦人をめぐる哀話

滿洲景氣渦卷く新京の裏面に聞くも涙ぐましい哀話が潜んでゐる……新京領事館警察署瀧澤巡查が二十五日戸口調查のため商埠地の大賀龍吉氏所有の支那式バラツク合宿所に赴いたところ三十七、八歲位の一邦人がうす汚いせんべいぶとんにこの世の人とは思はれぬほど衰弱しきつた身体を横へて苦悶してゐるのを發見した、同巡查はこの悲慘な一邦人にいたく同情を寄せ詳しい

『調查』を行つたところ右は原籍福岡縣粕屋郡仲原村無職青木勝己（三四）氏で瀧澤巡查の問に對し悲しみの過去を追憶しつつ涙ながらに語る、同氏の話によれば氏は昨年七月迄前記鄕里にあつて老ひぼれた一人の母と愛妻の中に惠まれた三人のいとし子と一緒に家業の農業に從事してゐたが男手の少い同家の事故家運は日に〳〵傾きゆくばかりで一人煩悶と焦燥の日を重ねてゐるうちに妻は突然の病がもとで三人の子供をのこして

『不歸』の客となつてしまつた途方に暮れた青木氏は悲しみの裡に淋しき野邊送りをすませ三人の子供を老母に委して家運挽回の大望を胸に昨年九月鄕里を出發渡滿の途についたが何處迄も惡運はつきまとひ遂に働き手の青木氏を病床に呻吟させたので止むなく途中朝鮮の友人宅で本年三月迄養生し僅かばかりの旅費は殘に使ひ果し身体の回復と共に友の情によつて僅少の費用と旅費を惠まれ一路新京へと急いだのである然し誰一人として知人のない

『新京』で思ふ樣には働けずあちこちの雜務でやつと得た僅かの金を鄕里に送つてゐたのであるが何といふ運命の神は無情であらう、八月十九日午後二時頃日本橋通八島通の交叉點に於て輻湊する人通りをよけんとしたせつな一台の自動車に押倒され右足を骨折し身の自由を奪はれた、彼はそれ以來前記住所に於て整骨醫の治療を受け漸次快方に向ひつゝあつたが無理な生活の爲に榮養を缺いでゐる彼は遂に

『余病』を併發したが收入の道を絕たれてゐる爲に醫師の診斷は勿論其の日の糧さへ充分に取れず家主の大賀氏の情によつて僅かの支那食を得て命をつないでゐる、然し內地にあつて靑木氏の仕送により生計を立てゝ居る五十四才の老母と十一才の長男、八才の長女、五才の次男は今後如何にして生きて行くだらうか、總領事館署に於てはこの悲慘な一邦人を救濟すべく種々方法を講じてゐる

第二回競馬
早くも大人氣
廿七日から始まる

本秋の掉尾を飾る新京養馬俱樂部主催の秋季第二回大競馬大會は愈よ二十七日から新京新競馬場で堂々百三十頭が出馬し華々しく開催されることになり競馬ファンは早くも熱狂し當日を待ちかねてゐるが各

『抽籤』馬競走では鹿島、三河春駒、突風、愛知の優秀馬が人氣を呼んでゐる、呼馬甲組競走には國生、天領、公風、谷風、三洲、城山、合歡で、なほ四平街側の甲州號の大駒が參加するため興味百倍、呼馬乙組には恭洋、清進、開德、の三騎が最も注目されてゐる、新呼馬には吉井氏自からハルビンへ出張購入した名馬、當地で求めた五味、安岡兩氏の新馬がある、二流馬には支那馬の代表的玄海が呼名高いものである、なほ伊東氏所有の優駿は各抽籤馬の

『優勝』を取るものと豫想されてゐる、一方騎手としては大連から田中、宮城、川合、小川の諸氏が入亂れるため非常な人氣を呼んでゐる

街の景氣は？

人氣を呼ぶ
モスリン展觀
いよ〳〵明日から三日間
各店聯合で始まる

新京輸入組合日本洋毛工業會社主催で來る二十七日から三日間、三笠町大阪貿易會館跡で村岡、佐藤、秩父屋、近江モスリン店、みしまや、丹宗北村近藤、福田、やまきの十呉服店が仕入れてゐるモスリン一萬數千種を持ち寄り廉價卽賣展覽會を開催することになつた持寄り卽賣展覽會は新京始まつての試みで一般から歡迎され早くも人氣を集めてゐる當期間中は特に商店側では犧牲を拂ひ一等三十圓一本二等十圓二本三等五圓三本以下五等まで空籤なく景品を贈呈することになつてゐる

逆產處理品の
展覽卽賣會

二十六日から四日間市內祝町太子堂で逆產拂下品展覽卽賣會を開催する出陳品は去る八月二十日國務院で行はれた逆產處理品を市內青井表具店美術部で大部分競落したもので舊軍閥の豪華な生活を偲ぶことの出來る美術的家具など多數を占め骨董家の整理品も加へてある、時刻は每日午前九時から午後六時まで

金剛寺境內の
廉賣大賣出し
福引券付で大もて

祝町金剛寺境內廉賣百貨店では二十五日から向ふ一週間福引大賣出しを始めたが各店とも新荷を多數買込んで市民の寵兒として持てはやされてゐる、福引券は一圓以上買上げのお客に對して一圓每に一枚宛を進呈し、二十錢每に副券を添へ、副券五枚を以て本券一枚と交換する賞品は

一等　白米（大俵）　三本
二等　上等醬油（一樽）　五本
三等　木炭（大俵）　十本
四等　石鹼狀袋其他　五十本
五等　　三百本
六等　以下空ナシ　三千本

引換所は廉賣市場內事務所である

岡田吳服店出張
長春座で賣出し

二十五日から長春座で吳服の大賣出しが始まつてゐる大阪に本店奉天に支店を有する岡田吳服店の出張大賣り出しがそれである、同店ではこゝ四五年は每年新京でも出張大賣出しをやつて定評ある店で上等の品物を多數持ち込んでゐる期間は二十七日までの三日間午前八時から午後四時までである

けちな籠拔け
大枚「味の素」一鑵也
念入りでちよつと失敬

これはまたけちな籠拔詐欺……二十四日午後九時五十分ごろ市內日本橋通梶原食料店へ自分は新京百貨店の食堂だが至急「味の素」大鑵六圓六十錢を持つて來て呉れと電話があつたゝめ同店では直ちに金店員が自轉車で持參すると百貨店入口で二十七歲前後の白衣服を着た內地人風の男が梶原さんかと云ひながら「メリケン粉かね」と問ふたため「味の素です」と云ふや實はメリケン粉を注文したのだがそれで「味の素」も貰つておかうと受取り金店員がメリケン粉五百匁を取りに歸り再び來て見ると件の男は居らず、食堂に行つて尋ねると受取つた男は居らず詐欺にかかつたことを知り直ちに新京署に屆出た

兒童達のニコ〳〵 —きのふ新校長先生を迎へて—

大先輩の後を受けて嬉しい
着任した大隈公學校長談

去る九日慈父の如き小林前校長を失つて以來新校長先生のお顔だけでも早く見たいと待ち望んでゐた新京公學校後任校長の大隈先生は予定通り二十五日午後一時五十五分着列車で着任した、ホームには同校出迎代表

『職員』四名高級二學年男女兒童約四十名ボーイ二名が整列し江部高女、瀨川西廣場、宮町（首席）留木普通學校各學校長其の他關係知人多數の出迎えを受け列車からは氣色のよい大隈校長が六名の家族とともに下車出迎へ人と挨拶の交換あり、歸京關驗で兒童に取り圍まれて本社寫眞班のカメラにおさまつた、着任に際しての御

『感想』はと問へば隨分寒さが違ふね[illegible]較すると寒さもひどいし、氣分も非常に違つてゐます、大先輩である小林先生のお後を受けて非常に嬉しく思つてゐます、識の高い、滿洲通の先生の後をどうして進めて行かふかと思つてゐます、大体教育方針としては先づ落ちついて諸先生の意見を承つてからのことにしたいが小林先生の方針を

『現狀』維持のまゝ行くことにしたいです度々皆樣とも會ひして教へていたゞきます

と至つて謙遜で言葉少なに語つた

殖ゆる運轉手
きのふ、每月一回の試驗に
受驗者が六十八名

自動車運轉手の洪水……關東廳施行の自動車運轉手試驗は每月一回各署で行なはれてゐるが各署とも月を逐つてますます殖えて來る殊に新興氣分に湧ぎる大滿洲國首都新京はまた格別である、二十五日午前九時から同署樓上で試驗が施行されたが總志望者は六十八名、うち甲種二十二名このうち受驗者は朝鮮人十三名、支那人一人で他は內地人であつて、これ等の多くは內地朝鮮で運轉手免許證を附與されてゐるものだ

嫁と姑の心理
なぜ衝突する？
互に理解して平和の基を作れ
杉谷蒸次氏談

昔から我國では嫁と姑は仲の悪いものとして、川柳にいろく詠まれてゐるが、可愛い嫁がどうして憎いかなぜ姑がそんなに恐ろしいか、その原因は複雑な兩者の心理から考察せねばならぬが、大体次に舉けるやうな理由によるものと思ふ、從つて嫁と姑がよく調和して一家が平和に樂しく暮すためにはこの原因を除くことが必要である。でその不調和の原因は

『第一』に年齢の相違である、人の思想は年齢によつて異るもので六十のお婆さんが廿の嫁を自分と同じやうに考へたり、その反對の場合も同樣であるが相手の心理を理解しないところに衝突の原因がある

第二は個性の相違であるが幸ひ同じやうな個性をもつ嫁と姑が一緒になればよいがそんなことは先んどない、從つて姑が嫁の、嫁が姑の個性を理解しないところに衝突の原因がひそんでゐる

『第三』は趣味の相違であつて日本趣味の姑となんでも洋風でなければならない嫁との衝突はむしろ當然であらう、川柳にも「嫁姑流義を名のる品のよさ」なごと云ふ句があるが、趣味の修養に關する嫁姑の興和を云ひ現はしたものである、第四は知識の相違である、昔の寺小屋教育を受けた姑と現代教育を受けた嫁が話し合つたところでお互の理解がなければ、到底調和するものではなく、話の間に英語をはさんで姑の逆鱗にふれたり嫁はまた姑を輕侮したりするやうになるのは當然であらうだから知識の相違を理解しないところに不調和の原因がある

『第五』は信仰及び道德觀念の相違である、姑も嫁も佛教の信者であればよいが、姑は眞宗、嫁はキリスト教といふことになると自然そこに對立が出來る、道德觀にしても良心の強い姑と良心の鈍い嫁とは當然衝突を起すこととなる、第六は時代の變化である維新時代の人と、昭和人とは自然考へ方も異り、物の觀方も異つて居るべき筈で、姑がむやみに「昔の人はこうだつた」なごと云へば嫁は昔人間として姑を輕侮するやうになる、最後に最も重大なる原因のやうに思はれるのは姑の嫉妬心である、今まで自分だけを愛してゐてくれた息子が、嫁が來たために自分に對する息子の愛を嫁に奪はれてしまつたやうに一種の淋しさを感ずるこれは眞に子供を愛して居ればこそであるが、そうしたことをよく嫁で理解して居れば問題はない、それを嫁の方で「若いものは若いもの」と云つた風に姑をそつちのけにするやうな態度をとると、姑の嫉妬はますく高じ、そこに當然衝突が起る要するに嫁と姑の衝突はお互ひが相手の心を理解しないところから起るのであるからよく相談相手となることが必要である

異性判斷法

▲口の大きい人は飲食に緣が深い
▲耳が大きく首すじの太いのは健康で負け惜みがつよい
▲肩がすほんで口の小さい人は交際がせまい相である
▲頭が大きく耳が後にあるのは頭がいい

寢る前に歯を
何ゆゑ磨かねばならぬか
ライオン兒童歯科院長　岡本清纓氏談

人間の身体の中で一番不潔な場所は黴菌の棲み易い腸と口腔とであります、ところが、夜寢てから朝起きる迄の間に口腔の黴菌は著しく繁殖してちやうど塵埃捨場のやうになつてしまひますから、ムシ歯が生じ、口が臭くなり、色々な病氣感染の好い機會となります、それ故寢る前に歯を磨くことが絕對に必要であります

第一　睡眠中は睡液の分泌が少くて歯の面が洗はれないばかりでなく、舌や口の周圍の筋肉を動かしませんから摩擦による自然的清掃が行はれません、この自ら淨める作用が、實はムシ歯を防ぐに役立つのでありますが、これが睡眠中には行はれないために夜の間に多くムシ歯ができるのであります

第二　睡眠中の口腔は黴菌み培養する孵卵器と同じであります、歯の間に殘つてゐる食滓を營養とし、適度の温度と濕度とによつて、一四の黴菌は分裂して二四となり、次で四、八、十六、三十二、六十四といふやうに增殖して行きますから、忽ち無數に繁殖してしまひます、寢る前に歯を磨いた場合と、然らざる場合との唾液を取つて顯微鏡で調べてみると、磨かない場合の黴菌は、磨いた場合よりもはるかに多いことが證明せられます

第三　ムシ歯の原因は、口中の酸のためでありますが夜の口腔は稍溫度が高くなり食　が乳酸菌その他の黴菌のために醱酵して酸を生ずるのに一番都合がよいのであります、その酸のために歯の表面の琺瑯が侵されてムシ歯となります、黴菌が殖え食物が醱酵した證據は、朝起きた時の口中が惡臭を放ち、唾液がねばねばすることで分ります

第四　ムシ歯をつくる黴菌の主なるものは歯牙脫灰菌と歯牙溶解菌とであります、はじめ脫灰菌が歯の石灰分をやはらかにすると、次には溶解菌が歯を溶かしてムシ歯の穴ができます、これらの黴菌の活動は、口腔の靜止狀態にある睡眠中が最も適してゐますから、ムシ歯の進行を阻止するためにも、寢る前に歯を磨くことが大切であります

第五　口腔内には色々な病氣の原因となる所謂病原菌があります、即ちカタール球菌、流行性感冒桿菌、肺炎菌、百日咳桿菌等の活動を制止し病氣感染の機會を絕滅するためにも、寢る前に歯を磨くことが大切であります

米國陸軍歯科軍醫少佐ロドリクグ氏の研究によりますと、唾液一立方センチメートルの中にムシ歯をつくる黴菌が十萬以上あるとムシ菌に罹り易い、二千以下になれば安全であるとの事であります、今四十八萬の黴菌をもつてゐた一人の九歳の男子が寢る前に母親の監督の下に嚴重に歯を磨いた處が、忽ち一八五〇に減つて、全く安全地帶になつたといふことを報告して居ります、これによつてみても、ライオン歯磨本舗が多年天下に唱道してゐる夜寢る前に歯を磨くことが、如何に大切であるかゞ分ります

栗飯の拵へ方

家庭向美味しい栗飯の拵へ方を申しませう

▲材料(五人前)……白米五合、新栗三十、酒、五勺(大匙六杯)醬油大匙一杯半、鹽小匙一杯、昆布煮出汁一合

▲下拵へ……生栗は、餘り大粒でないものを選んで皮をむく、皮をむくには、先づ鬼皮をむいてから煮え湯の中に暫時入れて置いて、一粒宛竹篦で澁皮をむく大粒の栗は二つに切つて置いてから熱湯に入れ、蓋をせずに茹でる、蓋をすると色が惡くなる、水から茹でないで熱湯へ入れるのも色をよくする爲めである

▲栗の下煮……茹でて軟かになつた栗は別の小鍋に入れ煮出汁一合醬油大匙一杯半味りん大匙一杯を加へてザツト下煮をして置く、煮上げた後には約五勺位の煮汁が殘る

▲炊き方……三四時間前にといで笊にとげ、水を斷つて置いた白米五合を釜に入れこれに水五合、酒五勺鹽小匙一杯、栗の煮汁の殘りを加へて普通の御飯の如くに炊き火を引く時に栗を入れ十分間程蒸らして消き、櫃に移す時、栗と御飯をよく混ぜ合はせると美味しく出來上ります

海外だより

□各國の素人無線局　米國遞信當局では最近來世界各國の素人無線局(アマチユア無線局)許可數字を調査中であつたが此の程完成、發表された、主なるもの次の如し米國三萬、英國二千、佛國五百、日本二百であつてアルゼンチンの小國ですら二千のアマチユア無線交換の許可を得てゐる

□最大能率のパイロツト　獨乙航空界の權威カウマン博士は過去二十年間に亙り世界各國使用航空機の性能を精密に研究して來たがシーメンスオートパイロツトをパイロツト中最大能率を有するものであると折紙をつけ此の程白國紙に發表した

ラヂオ

十六日(木曜日)新京
午後五時〇分子供の時間(奉天より)お話　珍らしい渤海の客　千代田學校久原市次
同　五時三〇分ニユース(英語)
同　五時四〇分ニユース(露語)
同　五時五〇分ニユース(鮮語)
同　六時〇分ニユース(東京より)
同　六時二〇分語學講座(滿洲語)講師高宮盛逸
同　六時四〇分語學講座(日本語)講師植松金枝
同　七時〇分演藝(滿洲語)
同　七時三〇分講演(滿洲語)
同　八時〇分ニユース、氣象豫報、番組豫告(滿洲語)
同　八時三〇分時報(東京より)
同　八時三一分ニユース(東京より)
同　八時四五分ニユース氣象豫報
同　九時〇分演藝　尺八獨奏と合調　一、獨奏本曲木枯　森本壽童、二、合調百千鳥　一部森本壽童、二部阿波野輻童

滿洲國の關稅(五)
財政部稅務司長　源田松三

(八)關稅の一部改正

我が現行關稅率は嚢に述べたる如く海關接收當時中華民國海關に於て實施せるものを殆んど其の儘踏襲したる結果我滿產業經濟並に國民生活の現狀に照らし相當不合理又は不適當と認めらるるものあり之が改訂の必要は寔に切實なるものあるも關稅率の改變は其の財政上、經濟上に及ぼす影響の極めて甚大なるに鑑み特に愼重考究の必要あり輕々に斷行することを許さず、茲に於て財政部より一般的改訂の關稅改正は少くとも兩三年の準備期間を置き我國財政經濟の趨勢を十分檢討したる後外は國際經濟の動向に順應し内は内國稅制度の整理改革と相俟つて之が實現を圖らんとするの根本方針を樹立せり

然れども現行關稅率の中甚だしく我國の實情に即せず產業の開發を阻み現實の國策遂行に障害を與へ或は却て財政目的に背馳するが如きものに就ては前述の一般的改正の時期迄之を荏苒放任することを得ず能ふる限り速に之が改訂を行ひ以て應急の措置を講ずるの必要あるを認め左記方針の下に關稅の一部改正を行ふこととせり

(一)我國財政の現狀に鑑み收入に著しき減少を來すが如き改正は之を行はず
(二)暫定的改正なるを以て單なる形式上の是正は此際之を行はず
(三)部分的改正の結果一般稅率に不權衡を齎らすが如き改正は之を避く
(四)消費稅としての權衡是正を目的とする改正は之を後日に讓る
(五)而して次の條件に合致するものは可成此の際改正し關稅負擔を緩和す

(一)著しく排外的色彩ありと認むるもの
(二)著しく產業保護的色彩ありと認むる稅率にして我國に之が保護に該當すべき產業なきもの
(三)主として生活必需品にして特に高率たる爲輸入阻止の狀態にあるもの
(四)財政上許容し得べき限度に於て我國產業の開發上切實に必要ありと認むる者
(五)我國都市計畫促進の爲切實に必要なりと認むる建築材料
(六)前項減免稅に依り生ずべき稅收減に補塡する爲負擔力に餘裕ありと認むる品目に付稅率を引上ぐ

戀幻黒船往來

映畫上映及上演

（作）寺島柾史　（畫）布施長春

第百六十四回

片身（一〇）

イサクの片身を抱へたまゝ、カチウド老人は、それから幾時か山中を彷徨した。ナラの林を、岩道を、松原を、人家を遠ざかり、人眼を避け、東の方を指して、いつまでも歩きつづけた。

そのあひだも、カチウドは、物狂しくイサクの名を呼びつづけ、死んだやうにぐつたりなつたチプヌイの亞麻色の髪に接吻け

——おゝ、わしのイサクぢや、イサク！

情熱のうめきをつゞけながら、いばらの道を駈け廻つた。

そして、やがて、外洋の波の打寄する、名も知らぬ岬の崖で夜を迎へた。さすがにカチウドもぐつたり疲れて醜草のうへに腰を落とした。

『イサク……』

草の上に坐つたまゝチプヌイを抱き、べつとり濡れた髪の毛を愛撫した。

が、氣を失つたチプヌイは、ひと言もそれに應へなかつた。それが、かへつてカチウドの幻想幻覺を増長さした。

『イサク、おまへは、よくわしを忘れずにゐてくれた。わしはもう本國歸還ののぞみをすてたぞ。わしは時代に取殘された人間ぢや。本國では、わしを忘れてしまつたが、ただひとりわしを忘れずにゐてくれたのは、おまへだ。わしは姿を變へてわしに逢ひに來てくれたおまへを、はつきり讀むことができるのぢや……わしは、うれしい』

またしても、カチウドは、死人のやうなチプヌイの額に接吻した。

『わしは、きのふも、けふも、死場所を探してをつたのぢや。わしはおまへのゐる天國へ、一刻もはやく往きたかつたのぢや。わかつたか、わしは、この世に、もう何ののぞみも繋がぬ。わしは、ただおまへを抱きたかつたのだ。あの北洋の無人の島で、靜かにうれしく死んでいつたおまへの幻影を、わしは、ひとゝきもわが身から離さず抱いてをつた。それが、おゝなんといふうれしさだ……いまこそほんとうのおまへを抱き締め、夫婦の語らひをする時が來たのぢや……こゝにゐるおまへは、眞實イサクの片身。イサクの片身が、わしを迎へに來てくれたのぢや。やがて天國へ連立つて、そして、彼處で完全なおまへと逢はう。イサク、イサクの片身。さア、往かう……』

カチウド老人は、よろ／＼と立上つた。イサクの片身？サンプト番屋の酋長の娘チプヌイを横抱きにしたまゝ、名もなき岬の斷崖をふら／＼とたどつた。

ちきに、海洋の彼方から、紅い月が登つてきた。

『おゝ、月！　月もやはりわしを迎へに來てくれたか。……イサク見ろ、月があのやうに朗らかに笑つてゐるぞ』

月光にぬれながら、カチウドはチプヌイのつめたい紅唇を求め、情熱のうめきをあげながら、強くこの世の最後の接吻けをした。

と、その、最後の接吻によびさまされたやうにチプヌイは、老人に抱かれながら、ぼんやり眼を開いた。

『あれッ……』

月のあかりで、怪老人の顔を見るなり、チプヌイは悲鳴をあげた。が、その悲鳴も、氣のふれたカチウド老人は、死の勝利の叫びのやうに受取るのだつた。

『おゝ、イサク、うれしいか、さアゆかう』

カチウドは、身もだえすチプヌイをいだいたまゝ、月光にたかまる海を目がけて、幾十丈の斷崖の上から、うれしく、身を投げてしまつた。